

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2018年10月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

池の平青少幼年センター 子ども報恩講



蓮ちゃん通信 その①

2018年11月23日(金・祝)

子ども報恩講のつどい

「はじめての報恩講-東本願寺で子ども会-」

今年から帰敬式が受式できます。

- 会場/東本願寺(御影堂・阿弥陀堂・同朋会館)
- お話し/藤井慈等氏(三重教区南勢2組慶法寺住職)
- 参加対象/12歳までのお子さま、保護者・引率者
- 参加費/500円(精進カレーのお煮、記念品つき)
- 申込締切/11月9日(金)
※ただし、定員(200名)になり次第締め切らせていただきます。
- 申込方法/青少幼年センター(☎075-354-3440)まで直接お申込ください。



場を整えて

高田教区青少幼年指導主任 松村弘

毎年3月初旬に勤まる、池の平青少幼年センターの報恩講の準備がもうすぐ始まります。

全国各地のサポータースタッフ、報恩講のお勤めの内容や、仏典童話などを参考にした寸劇を考えます。冬を迎える頃には、子ども達が遊べるように雪上のフィールドを整備して、いよいよ報恩講の日を迎えます。

どれだけしっかりと準備をしても、子ども達や自然が相手ですから、スタッフの思い通りに事が進まないことも多々あります。自然が豊かな環境にある池の平青少幼年センターは、それが故に気候も変わりやすいです。晴れの天気ばかりでなく、雪が降ることもあるし、吹雪くこともあります。そんな都合のつかない大自然を体験する中で、子ども達は自分の思い通りにならないことや、物事に限界があることを知っていくのでしょ。

池の平の子ども報恩講は、ここできかない、自然に出会い教わる報恩講なのです。



※詳しくは「真宗」9月10月号をご覧ください。



お母さんの三つの顔

ある男の子がいきました。「お母さんに三つの顔がある。一つ、ごんな顔かな。一番見ているのはお母さんだから、みんなは知っているでしょ〜」

「笑っている顔」「怒っている顔」それは百面相かな〜

その男の子はこう言いました。「正面を向いている顔」は、僕と話しているときの顔だ。一つは正面を向いている顔。では、もう一つは〜

「下向っていたらわかる〜」

「横」

「ンボン」

じゃ、「横を向いている顔」は何でしょっぴか。お母さんが横を向いているとき何をしていますか〜

「料理」

「料理をこころをこころの顔」

料理をこころをこころの顔は「緒やなあ（笑）」横を向いている顔はお仕事をしているときだね。掃除をしたり、台所で料理を作っているとき、お母さんの顔は横を向いているよな。

「正面を向いている顔」「横を向いている顔」「お〜」の顔は〜

「後ろ」

おのお立派やな〜、おんなじく〜の子たちはわかるんやな〜

その男の子はいいました。それは「後ろを

向いている顔だ」。つて。毎口、お母さんが仏さまにお参りしている後ろ姿を見ていて気がついたんだ。だから仏さまに向かってお参りしているときの顔が「後ろを向いている顔」といったんだ。お母さんの後ろの顔は、仏さまに向かっている顔。

お母さん、まっすぐ正面を見ていているときの顔は、僕とお話しているときの顔。

お母さん、横向いているときは、一生懸命にお仕事をしているときの顔。

お母さん、後ろの顔は、仏さまにお参りしているときの顔。

今日、一緒に参加しているお父さん、お母さん一子どもに「後ろを向いている顔」を見せていますか!!

お父さんのいち

仏さまにお参りするとき、手を合わせます。合掌です。ここが大事です。数年前、中学一年生の子のお父さんがガンで亡くなりました。亡くなる前にお父さんは子どもに、「お父さんが亡くなる〜、お母さんが



子どもたちと聞く法話

「59年」のつながり

けになる。だからお母さんを手伝ってやってくれよ。家に帰ったら靴を揃える、後片付けもする、「ミ〜くは出す。お母さんに心配をかけない。お父さんのいうことわかつてくれるか?」といいました。その子はボロボロ泣きながらうなずきました。翌明けの法要のとき、私はその子にお父さんに会いたいかと聞きました。『会いたい』といいました。それでその子に静かに手を合わせるようにいいました。合掌した子に手の中が暖かくなっただろう。その暖かさはお父さんのいのちの暖かさや。お父さんに会いたくなったら手を合わせなさいといいました。その子どもはすーっと手を合わせていました。

このいのちにつながる「合掌」は、私達が人間になっていく大切なことなんだ。さあ、みんな一緒に手を合わせてみましょう! (子ども連、手を合わせる) 暖かくなりましたか?その暖かさを「ナムアマミダブツ」といいます。さあ、私が仏さまに向かっ「ナムアマミダブツ」といいますから、みんなも一緒にあとに続いていってくださいな。

「ナムアマミダブツ、ナムアマミダブツ、ナムアマミダブツ」

お念仏は「糸」です。みんな数珠を持っていますね。数珠のいのちはなんですか?

「ひも」

糸って言ってほしかったな〜(笑)

そう「糸」です。糸が切れたらバラ玉です。糸で貫かれていますから数珠になるのです。バラ玉を見て数珠とはいいません。それと

蓮ちゃん通信 その②

新リーフレット発行

「いのちの教育は、お寺から〜やがて死んでいく君は今、生きている〜」



このリーフレットは、月参りや法事、葬儀など、すでにある仏事の場において会う子どもや若者の存在に目を向け、「身近な人の死に触れ、いのちの重さとともに考え、語り合ってほしい」という願いのもと作成しました。リーフレットを手渡すことから始める青少年教化の一助となることを目的としています。ハガキ二つ折りサイズなので袂(たもと)に入れて、お参りの際にお渡しください。

必要部数無償にて送付いたします。詳しくは、青少年センターまで。

「ナムアマミダブツ、ナムアマミダブツ、ナムアマミダブツ」(みんな一緒に) 同じように、私たちには沢山のできごとがあります。楽しいこと苦しいこと。これからも、もっとも沢山のことがありますよ。でもそれだけだったなら、いろんなことが沢山あったというだけで「人生」になりませんよ。糸で沢山の玉が貫かれてはじめて数珠になるように、お念仏で沢山のできごとが貫かれてこそ、人生になるのですよ。いろんな沢山のことが、自分を大きく育ててくれることを知るには、念仏の糸で貫いていってこそ知ることができなんだよ。さあ!もう一度、手を合わせて「ナムアマミダブツ」といいますよ。

☆子ども報恩講などのお齋に☆

「白玉団子ぜんざい」 豆腐入りをつくらう!

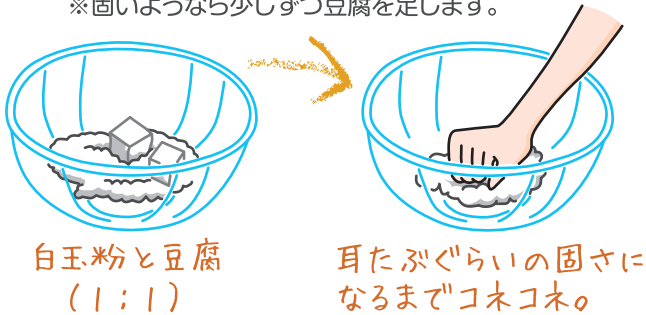


子どもたちと一緒に簡単にできる白玉団子。
今回は水のかわりに豆腐を入れた
モチモチフワフワの白玉団子を紹介します。
ぜんざいは仕込み不要な缶づめを使います。
余裕があれば手作りを用意しておくのもいいですね。

準備するもの(5人分)

- ④ 白玉粉…200g
- ④ 絹ごし豆腐…200g~240g
- ④ あずき缶…500g
- ④ なべ…2個
- ④ ボウル…2個
- ④ ざる
- ④ 網じゃくし
- ④ 氷水
- ④ おたま
- ④ お椀・おはし

1 ボウルに白玉粉と豆腐(水きりしていないもの)を入れ、豆腐をくずしながら練ります。
※固いようなら少しずつ豆腐を足します。



2 適度な固さになったら、小さくまるめて中心にくぼみをつけます。



3 沸騰した湯に②を入れ、浮き上がってきたら1分ほどゆでます。



4 網じゃくしですくって氷水で冷やします。冷えたらざるにあげて水分を切ります。



5 あたためておいたあずきのなべに白玉団子を入れてあたため直します。

甘さや濃度はお好みで調整してください。



6 お椀によそってできあがり!



あつあつフーフーいただきます!!

食前食後のことばを唱和しましょう。



ひとくちメモ

小豆は親鸞聖人の好物だったという言い伝えがあることから、報恩講などのお齋の場で、「小豆粥」がふるまわれています。子どもたちと一緒に親鸞聖人の遺徳を偲びましょう。

連ちゃん通信 その③

御正忌報恩講期間中は、「子ども参拝案内所(子どもテント)」を開設します♪

11月21日~28日は、東本願寺境内白洲にて「子ども参拝案内所(子どもテント)」を開設します。是非ご家族で御正忌報恩講にお参りいただき、テントにお立ち寄りください。お子様に楽しんでいただける場をご用意しています!



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が遺してくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…初めて社会と寺院をつなぐべく派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

とう みょう お 燈 明

お 燈 明 を 灯 す

お寺やお家でご本尊にお参りするとき、お燈明を灯します。それは、朝のお勤めが早い時間であること、夕べのお勤めが夕刻であることもあります。ご本尊をはっきりと拝むという理由もあります。

わたしたちは、悩むとき、悲しいことがあるとき、こころが暗く、先が見えなくなります。み仏さまは、わたしたちが暗闇で道に迷ったとき、

「ともしび」として照らしていただき、すすむべき道を示してくださいます。

くら やみ 暗 闇 と 「ともしび」

真っ暗な闇のなかで出会う、お燈明の「ともしび」は、本当にこころの拠りどころです。暗闇のなかで、恐怖におののくわたしたちを安穩に導いてくださいます。

出典：幡谷淳信「三月教案」供養
『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さ が え なつ ふみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

「お参り」のとき「お燈明」を灯すのはね、ちゃんと理由があるんだよ。その理由を知って「お燈明」を灯すといいとおもう。わたしたちの気持ちがつらく悲しいときは、こころがトンネルのような暗いところにいるとおもう。そのとき、お燈明を灯して、こころに「ともしび」を照らすのは、すてきなことだね。

法 話 例

新コーナーの活用例

- ① 本文「お燈明」をそのまま覚えて話す。
 - ② プリントして配布し、朗読する。
 - ③ 法話例を参考にご自身の表現で話す。etc...
- 上記以外にもその場に合わせてご活用ください!

本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎私の住む地域では、報恩講を親しみを込めて「ほんごさん」と呼んできた歴史があります。以前は聴聞の場であると同時に、お楽しみでもあった「ほんごさん」。その雰囲気を感じられるのが「子ども報恩講」だと思います。今年は何をしようかなと、あれこれ考えるのが楽しみです。(編集長 池崎方子)

◎もうすぐ11月になり、真宗本廟では御正忌報恩講が勤まります。実は私も11月に誕生日を迎えます。報恩講も誕生日も、どちらも大切な日になります。子どもの頃は誕生日にプレゼントをねだったり、お祝いしてもらったことだと思っていました。今年はお親に今までの感謝の気持ちを伝えてみようと思います。

(青セ幹事 山崎裕大)

編
集
後
記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派(東本願寺)青少年センター TEL.075-354-3440

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!